

桜工



日本大学創立100周年

日本大学工科校友会

No. 71 1989

目次

日本大学創立100周年によせて	2
木下理工学部長 建築学会会長に就任	3
工業化学科創立50周年記念事業成功裡に終る	4
最近の短期大学部について	6
100周年キャッチフレーズ決定	7
「訃報」豊永権二大兄を偲んで	8
前会長加藤利男氏のご逝去を悼んで	9
国際オリンピック応援団長	10
部会だより	
土木・建築・機械・電気・工化	11~13
薬学・物理・数学・交通・精機	14~16
海建・航宇・電子	17~18
クラス会だより	土木・機械・電気 19~23
地方支部だより	
青森県・岩手県・山形県・宮城県	24~25
福島県・群馬県・埼玉県・静岡県	26~28
石川県・大阪府・愛媛県・佐賀県	28~31
職域支部だより	32
事務局だより	35
正会員終身会費62年度納入者	37
地方支部職域支部一覧表	41



測量実習センター



日本大学創立100周年によせて

日本大学理工学部

学部長 木下茂徳

今年、日本大学は100周年を迎える。創立記念日の10月4日には記念式典、祝賀会、その前後には、日本大学展、記念講演会、国際シンポジウムなどの行事が予定されている。既に駿河台校舎の一号館前には「100周年まであとx x x日」という電光掲示板が立ち、ムードを盛り上げている。

一方、わが理工学部にとっては、前身の高等工学校が設立された大正9年から数えて、今年が70年目に当たるので、正確な意味での70周年（満70年）は来年であるが、今年から70周年行事をスタートさせ、日本大学100周年と平行して理工学部70周年を祝っていきたく考えている。

理工学部70周年行事の具体的な日程など、企画の詳細については、現在、委員会で検討中であるが、大きなイベントとしては、来年1月にオペラ「ヴェリス」の公演を計画している。これは本学部と学術交流を行っているMITメディア・ラボのマコーバ教授が作曲したもので、コンピュータと映像と人工知能を駆使し、芸術的にもすぐれた作品として注目されている。

また、記念事業としては、100周年事業も兼ねて、セミナーハウスの建設を予定している。理工学部の研修施設としては、以前、志賀高原に「工科山の家」があり、ここになつかしい思い出をもっておられる卒業生も多いことと思うが、諸般の事情により数年前から使用できなくなっており、代替施設の建設が切望されていた。新しい計画では、土地は借地、運営は地元と協力を仰ぐなどして、極力、経費節減をはかっていきたい。

今、もう一つ力を入れて推進しているのは、理工学部70年史である。これは、従来のような事項の羅列ではなしに、エピソードなどもなるべく入れて、誰にでも親しめる読み物にする計画で、既に執筆を専門のライターに依頼した。特に、創設期の記録はできるだけ詳しく残したいと考え、現在、全力をあげて取材活動を行なっている。先日は、電気工学科

の第1～2回生の方々にお集まりいただき、お話しを伺った。校友の皆さんの中で、もし古い理工学部校舎内外の写真、関係者の写真、重要と思われる文書、出版物などをお持ちの方がおられたら、ご一報いただきたい。また、草創期のエピソードなどをご存じの方もご連絡いただきたい。

こうして私しが歴史に力を入れているのは、単なる回顧趣味ではなく、学校創設期の熱意とバイタリティを想起して、将来への発展のバネにしていきたいと念願しているからである。

私が抱いている「理工学部のヴィジョン」は、これまでも度々お話しているように、わが理工学部を東洋のMITと呼ばれるような超一流の学園にしたい、ということであるが、その一つの重要な柱として、卒業生との連携を強化したい、ということを考えている。

MITをはじめとして、これら超一流の大学では、どこも卒業生を非常に大切にし、また卒業生も母校を大切にし、その連携が大きな力になっている。われわれも、これを大いに見習い、校友と手を携えて発展の道を歩んでいきたいと思う。現状では、残念ながら、これが十分うまくいっているとは云えない。この点を早急に改善していきたいと考えているので、校友の皆さんからも、ぜひ積極的なご意見を聞かせていただきたい。

日本大学100周年、理工学部70周年は、新しい大きな飛躍のスタートでなければならない。理工学部では、一昨年からの長期計画の検討のため、十余の委員会を作り、研究を重ねてきた。その結論がほぼ出そろったので、すぐにできるものについては、今年からでもただちに実行に移していきたい。

今後ますます激動が予想される21世紀に向けて、校友の皆さんと共に、日本大学理工学部の未来を切り開いて行く所存である。

◎クラス会等に“桜工”をお送りします

——事務局までご連絡を——

電話 03-293-3251 内線206

斎藤・江口・田中

【会誌委員会】

委員長	長江啓泰 (機械)	委員	伊藤堅 (機械)	委員	五十嵐正夫 (数学)
副委員長	南山齊 (工化)	委員	井上暢之介 (電気)	委員	小西和夫 (交通)
副委員長	清岡進 (精密)	委員	長谷川明 (薬学)	委員	佐藤秀人 (海建)
委員	木村吉己 (土木)	委員	青木正忠 (薬学)		
委員	石山元雄 (建築)	委員	植松英穂 (物理)		

編集後記

「桜工」71号は、新しい年号のもとでの第1号となった。本年は日本大学100周年、母校理工学部70年目、短期大学40周年にあたり、また、工業化学科は昨年50周年を迎えた。

母校にとって区切りのよい本年は、くしくも昭和から平成への新年号の切り替えを迎え、桜工にとっても新しい時代への転期を示唆しているものと受けとめている。校友への役立つメディアとしての桜工とするため、先輩諸兄のご支援を乞う。



日本大学創立100周年

本学創立100周年のシンボルマークが決まった。今後“校門の輪”を広げる“使者”として、100周年記念事業推進に活用される。

全日大人から作品を募集。応募総数1513点について、2回にわたる審査の結果、校友の末光順子さん（昭和54年、文理学部心理学科卒）の作品が金賞に選ばれた。

平成元年3月25日発行

発行所 日本大学工科校友会

編集・発行者 長江啓泰

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-293-3251 内線206

振替 東京3-162710

印刷所 有限会社 ムサシノ 総合印刷